

米倉教公の週間為替市場見通し

9/5 日週号

ドル/円予想レンジ 101.50 - 105.50 円

『米経済指標と FRB 幹部の発言に一喜一憂継続！』

■今週の市場動向：ドル/円は4週連続陰線引け

今週のドル/円の週足では、2週連続となる陽線引けとなった。2週連続は4回目となる。その翌週は大きく下落することが多いのが特徴だ。週明けは26日にイエレン米FRB議長が早期利上げに前向きな見解を示したことを受け、ドル買いが強まり102円台回復となった。30日は日本株安で一時101.70円台まで下落したが、米長期金利上昇や米8月消費者信頼感指数の好結果が後押しとなり、103円台まで買い上げられた。31日は日本株高を支えに買いが継続した。米8月ADP全米雇用リポートで、非農業部門雇用者数が予想を上回ったことを受け103円台半ばまで値を伸ばした。1日も前日の流れを受けたことや米長期金利の上昇を手掛かりに103.99円まで上げ幅を拡大した。ただ、米8月ISM製造業景気指数が市場予想を下回り、50の節目も下回ったことで103.10円台まで失速した。2日は米8月雇用統計で非農業部門雇用者数や失業率が予想より弱い結果となったことで、発表直後一時102.80円まで下落した。しかし、米長期金利が一転上昇したことを支えに一時104.32円まで急反発した。

■来週の注目点：米経済指標とFRB幹部の発言に一喜一憂の流れ継続

米8月雇用統計は予想を下回ったが、7月分は上方修正されるなど、中長期トレンドとしての緩やかな回復軌道は維持されている。フィッシャー米FRB副議長が目安とする『7.5万人から15万人』増を越えたことで、利上げ検討への警戒感が残った。来週も経済指標やFRB幹部の発言に一喜一憂の流れが継続する。9月の利上げ観測は後退してきたが、12月の利上げ観測は残っている。5日に黒田日銀総裁の講演があり、今月の日銀金融政策決定会合における金融政策の『総括的な検証』を前にした黒田日銀総裁の物価目標や追加緩和に対するスタンスに注目が集まる。週明け5日はレーバーデーで米国市場が休場となる。そのため、市場参加者減少による売買エネルギーの減少が想定され、値幅の抑制やポジション調整的な動きには注意が必要となる。

■テクニカル的な見解：イエレン米FRB議長講演まではレンジ相場の様相

8月30日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+60,316から+63,661へと円の買い持ち高は5週連続の増加となった。パラボリック（パラメータ：0.08、0.3）では、週初から買越し継続している。MACD（パラメータ：12、26、9）では、MACDとシグナルがゴールデンクロス継続。ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%K：91.13と%D：91.71と買われ過ぎ過熱感が出ている。75日移動平均線が上値抵抗ラインとなるかがカギとなる。5月31日、7月21日では、ストキャスティクスが買われ過ぎまで上昇しているところで、75日線が上値抵抗ラインとなりその後は下落した。今回も全2回目と同様の動きとなるのか、それとも75日線の104.18円を上回ってくるかが焦点となる。今週は1ドル=101.50-105.50円を想定する。



★今週の気になる出来事

8月30日から9月22日までアストロの重要変化日となる水星の逆行期に入っている。水星の逆行期は、相場が上下に荒れ易いが、大きなトレンドを作らない気迷い相場となり易い。また、テクニカルなどの有効性も劣化し、ダマシが多く出やすい時期となる。ただ、逆行が順行に戻る最終日の前後3日は、円高になり易いと言われている。最終日前後3日にFOMCと日銀金融政策決定会合が開催されるのも、偶然としては出来過ぎの感がある。両会合後に円高の動きになったら、アストロの有効性が証明される。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。